

早稲田大学 人間科学部 英語 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式
試験時間	90分
特徴・その他	基本的に大きな変更点はなかった。大問3つで、読解問題、前置詞を入れる補充問題、正誤問題である。ただ、[II]の前置詞を入れる空所補充問題は、一昨年、昨年と徐々に易化してきた。さすがに一昨年のレベルは受験英語のレベルを超えていたので、受験生にはありがたいことだろう。[III]も昨年より楽になったようだ。[I]は昨年並みだろう。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
[I]	英文読解問題	(i)～(viii)に分割されているが、基本的にリードの部分のある内容一致問題。昨年はすべて内容一致問題であったが、今年は1問のみ下線部の意味を問うものが出題された。一昨年、昨年と自然科学系(医学系を含む)のテーマのみであったが、今回は松本城の話が出たので、すべてが自然科学系なわけではなかった。ただ、相変わらず圧倒的に自然科学系が中心である。人間科学部という学部を考えると、当然のことであろうか。英文は、固有名詞や難語が多く含まれているので読みにくい。ただ、内容一致問題が基本なので、はっきり内容がわからずとも、本文の該当箇所さえ押さえればどうにかなると思ってほしい。	標準
[II]	空所補充問題	前置詞を入れる空所補充問題。この問題は15問中8、9問の正解を目指してほしい。昨年よりやややさしくなったが、難しいものも含まれている。たとえば、27. face off「対決する」、28. on the cutting edge of～「～の最先端で」、29. 面積、体積の比率を表す A by B「縦 A 横 B」、36. with a fair degree of accuracy「かなり正確に」(with は accuracy とつながるのであって、degree とはつながらない)など、受験生泣かせの問題がいくつかあった。傾向としては、熟語に絡んだものが圧倒的に多かった。昨年は前置詞本来の意味を問うものや、名詞につく前置詞なども狙われ、バラエティーに富んでいたが、今年はかなり偏った感じだ。このような傾向の違いは、隔年を意識しているのかもしれない。今年の NO WORD は1つだった。例年1つか2つが基本。覚えておこう！	やや難

番号	出題内容	コメント	難易度
[Ⅲ]	正誤問題	<p>この問題も高得点はなかなか望めないが、今年はやや簡単になったので、10問中6, 7問を目指したい。昨年と違い、今回は基本的な部分が正解になっていた。本当に難問なのは、49. くらいだ。piles of ~「たくさんの～」、stacks of ~「たくさんの～」、and what have you「など」がすべて正しいことを知っているのは大変だ。少なくとも、今年程度の正誤問題なら、人科の過去問より少しやさしい過去問で訓練したほうがよさそうだ。正誤問題のポイントは、該当箇所気づけるかどうかなので、いろいろな問題をどんどん解いて鍛えてもらいたい。</p> <p>今年のNO ERRORは2つ。例年1つか2つが基本。これも覚えておこう！</p>	やや難

[総合コメント]

昨年までの人間科学部の問題は、英文読解問題で点数を稼いで、他の文法問題で失点をどれだけ抑えられるかがポイントであった。しかし、今年の問題は、[Ⅱ]、[Ⅲ]が易化したことにより、合格最低点がかかなり上がると思われる。高得点争いの問題になってきたようだ。英文読解問題は今まで通りであるが、[Ⅱ]、[Ⅲ]でも6割程度取れないといけない。今年の傾向が続くならば、基本熟語や基本的な文法をいかにしっかり覚えているかが勝負となりそうだ。